

(別紙)

成果の説明書

|   |         |
|---|---------|
| (氏名) 土谷岳史   | (学部) 経済 |
| <p>1 重要事項</p> <p>2014年度は基礎ゼミの内容を専門書の精読から新書の多読へと変更した。15回の講義で新書9冊と専門書1冊、合計10冊を読破するのである。本年度もゼミ生には卒業論文の執筆を行わせ、卒業論文集を作成したが、毎年、論文指導の多くが日本語表現の問題に関わっている。文章の論理的な組み立て以前に「てにをは」に苦労しているのである。これは一般的に学生の読書量が不足していることが文章作成能力の不足の原因となっているのではないかと推測し、基礎的な文献である新書の多読を試みたのである。学生は毎週200頁を超える新書（一部のものには2週に分けた）を読み、議論をしなければならない。しかし同時に学術的な研究書も読解できるようにならなければならない。そこで9冊の新書を読んだうえで1冊の専門書を数回に分けて読むことにした。冬休みを挟んで1月から読み始めたこともあり、例年よりも難解な文献にもかかわらず、例年以上の読解ができていたように思う。</p> <p>しかしながら文章作成能力というのはそう短期間に向上するものではない。2013年度よりはじめた長期休業期間中のレポート作成、添削、修正という指導も引き続き行っている。</p> |         |
| <p>2 その他の事項</p> <p>研究論文については作成したものの諸事情により2015年以降に発表することになったものがある。</p>   |         |
| <p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>ゼミについては専門書を例年よりも多く精確に読むことが可能になっているか、後期の卒業論文発表で文章力向上が見られるかに着目しつつ指導していきたい。論文については2015年度中に確実に発表する予定である。</p>  |         |